

令和4年度第1回横須賀市健康増進計画・食育推進計画専門部会
議事録

- 1 開催日時 令和4年6月30日(木) 9時30分～11時30分
- 2 会場 生涯学習センター第2学習室
- 3 出席者
委員 高宮光(部会長) 半澤栄一 伊藤佳子 林但 田中和美
中山直子 稲垣恭子 (敬称略、五十音順)
事務局 夏目久也:健康部長
山本修三:健康増進課長
長谷川美千代:保健所保健予防課主査
川田貴久江:健康増進課主査
高橋邦子:健康増進課主査
竹内和美:健康増進課主査
福岡明子:健康増進課主任
望月朋美:健康増進課主任
山本彩子:健康増進課主任
安保千絵:健康増進課担当者
一般傍聴人 1名
- 4 欠席者 西山正澄
- 5 配布資料の確認
- 6 開会 事務局(健康増進課長)が司会となり開会した。
 - ・事務局より資料の確認
 - ・専門部会員からご挨拶いただいた。
 - ・事務局より傍聴人1名の出席があることの報告。
- 7 挨拶 夏目健康部長が挨拶
- 8 職務代理者の選出
 - ・高宮部会長より、半澤部会員を推薦。半澤部会員がお引き受けされる旨回答。
 - ・半澤部会員よりご挨拶いただいた。

9 事務局職員の紹介 事務局職員が自己紹介した。

これより先は、部会長による議事進行で行われた。

10 議 事

(1) 「健康増進計画・食育推進計画（健康・食育推進プランよこすか）令和3年度進捗状況と令和4年度取り組み」等について

・事務局が「健康増進計画・食育推進計画」の令和3年度進捗状況および令和4年度取組内容について説明した。

・部会員より意見、質問等を求めた。

① 事務局が、取り組み分野の「がん」、「循環器疾患・糖尿病」、「健康づくりを目的としたネットワーク」について説明をした。

・部会長より、意見、質問を求めた。

部会員質問 計画どおりできなかった事業とは、具体的に何か？

事務局回答 コロナ禍で当初予定していた教室等の回数、時間などが通常のように行えなかった。コロナが落ち着いたタイミングでは、定員を減らすとか、運動教室では息が上がらないような運動を行うようにするなど、工夫して実施した。

部会員質問 循環器疾患と糖尿病評価理由について、「職域との連携も意識し関係づくりをしていく」とあるが、具体的な取り組み事例はあるか？

事務局回答 職域との連携会議に出席し、市内企業所属の保健師や看護師と職場での健康課題について情報交換し、働き盛り世代への健康づくり支援について情報収集している。

部会員意見 自身が出産後に色々な教室に出席した際、プロの話が大変役に立ったが、経産婦の方の生の声を聴ける機会があるとさらに参考になると思う。

部会員質問 「地域健康教育、講座の実施」について、地区によって教室の実施回数に大きな差があるようだ。地区ごとに企画内容が違うからなのか？

事務局回答 コミュニティセンター実施の教室については、各コミュニティセンターが企画している。

部会員意見 幼稚園の役員をしていて感じることだが、いわゆるインターネットリテラシーの認識について各個人で大分違うと思う。そうした教室を開催してもらえるとありがたい。

事務局回答 貴重な意見として担当課に伝える。

部会員意見 すでに胃がん検診でのがんの報告数が減っているが、がんが減ったのではなく検診が減ったことでがんの発見件数が減っているということ。なおかつ、進行がんが増えていることもあり、コロナ禍の影響であると心配している。

② 事務局が、取り組み分野の「食育」、「栄養・食生活」、「身体活動・運動」について説明をした。

・ 部会長より、意見、質問を求めた。

部会員質問 中間評価で肥満の割合が多いという評価が出ているが、若い男性に多いような気がする。何か進めている事業案はあるか。

事務局回答 休日に実施しているイベントがあるので、働き世代には健診を進めることを含めた普及啓発を考えていきたい。

部会員質問 リモートワークが増えたことで太ったということがあるのか？

事務局回答 職域会議に出席した際、リモートワークが増えたという企業はあり、コロナが落ち着いてもリモートワークと出社を並行しているという企業もあった。そうした中で若い従業員の運動能力が低下している話もあった。この話を聞き、年代に関わらず取り組みの必要性を実感している。

部会員意見 小児科受診に同行している親に聞くと、通勤すること自体が運動になっていたそうだ。30代位の人たちに「太った」という声が出ているように思う。

部会員意見 子どもを市内の私立幼稚園に通わせているが、園内の給食センターで給食を作っている園では園児がよく給食を食べるが、給食センターがなく仕出しの弁当を出している園では園児は、美味しくないのでは食べないという話を聞く。小学校のように、給食センターのようなところから支援をしてもらえたら、子どもの食育が進むのではないかと思う。

事務局回答 私立幼稚園は、市の職員が毎年指導監査をして、栄養価がとれているかチェックをしている。園の事情があり給食センターをすべて作るようには言えないところがあるが、弁当をみてしっかりとした栄養価のものを提供するように指導している。

部会員意見 園からは、経済的な面で給食センターを作ることができないという声を聴いているが、何か工夫できたらと思っている。

事務局回答 監査を徹底していきたいと思っている。

部会員質問 「統一献立における地場産物の使用割合 15.4%以上を目指す」ということだが、前回の資料の時から数字が変わっていないようだ。地場産のものを提供するにあたって安定供給ができるような生産量が足りていないということなのか？

事務局回答 生産量が追いついていないというのはあると思う。市内をいくつかのブロックに分けて順番に提供していくように担当課も工夫しているが、地場産業の天候の問題もあり、なかなか数字が伸びていない現状だ。

部会員質問 小学生の子どもの献立を見ると、夏の献立にトウモロコシ、枝豆、スイカがなかった。なぜか？

事務局回答 献立は県で作成しているので市では把握していないが、物価が上がっている中で仕入価格の問題などもあるかもしれない。

部会員意見 三浦半島名産のおいしい野菜がたくさんあると思うので、献立に取り入れて欲しい。

事務局回答 ご意見を担当課に伝える。

部会員質問 15.4%の根拠はなにか？

事務局回答 会議終了までに調査する。

③ 事務局が、取り組み分野の「喫煙」、「飲酒」、「口腔の健康」について説明をした。

・ 部会長より、意見、質問を求めた

部会員質問 妊婦歯科検診の受診率があまり高くないようだが、どう考えるか。

事務局回答 妊婦歯科検診は、始めて3年になるが、当初30パーセントの受診率を目標としていた。初年度は20パーセント弱だったが年々増えていき昨年度は510名の受診で26.3パーセントの受診率となり右肩上がりとなっている。要受診となる方も年々減っているという感触だ。

部会員意見 妊婦の方で歯科検診を受診する方は関心が高い人だと思うが、実際には（治療が必要な方が）歯科検診をしないことが多い。妊婦歯科検診を受けない方に啓発したほうがよいと思う。

事務局回答 プレママ教室など、妊婦を対象とした教室があるのでチラシを配布するなどして趣旨を伝えたいと思う。

部会員意見 歯周病検診について、20代の受診が多く、若年化が進んでいるので、市として対応を考えてほしい。

事務局回答 学校保健安全法第13条により、18歳までが学校で歯及び口腔の健康診断を実施しているが、歯科検診を学校で受けることになっているが、20歳になると検診を受けることが難しくなる。歯科医師会による20歳の検診をしていただき助かっている。歯科疾患や口腔ケアについても普及啓発を行っていきたいと思う。

事務局確認 事務局全体評価の際には、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために、実施できなかった事業については、各項目で評価を統一的にするため、代替え等で実施した場合には「【B】おおむねできた」と判断することとした旨冒頭に伝えたが、そのような評価が妥当であったか。

部会員回答 妥当である。

(2) 「健康増進計画・食育推進計画」最終評価のための市民アンケートの検討

事務局が資料3により、アンケート実施の目的、概要、アンケート（案）につい

て説明。部会長より意見、質問等を求めた。

部会員意見 非常に多岐にわたる質問内容で、災害備蓄など新しい概念を組み込んでいる。

部会員質問 前回（平成 29 年度）実施したアンケートの回収率はどれくらいか。
事務局回答 未就学児・小学生が 55.5%、中学生・高校生が 42.0%、成人が 46.2%。
部会員質問 回答対象者はどのように抽出しているのか。

事務局回答 無作為抽出である。

部会員意見 市内に 360 程の町内会があるが、小さな子どもがいないところや高齢者が多いところがある。そこが考慮されていないと、このアンケートは市の実態を表しているといえるのかが疑問である。

部会員質問 送付数 3400 部の、年代ごとの内訳は？

事務局回答 前は、未就学児・小学生が 400 部、中学生・高校生が 600 部、成人が 2,400 部で、人口構成割合と回収率を鑑みて各年代の配布数を決めた。年代ごとの配布数をどうするかは今後考えたいと思っている。

部会員意見 送付時は人口構成割合に沿った人数で配布して、回収後検討する際に、3つの世代に分けるとするのが妥当だと思う。

部会員意見 配布先については、アンケートの結果が良いデータとなるかどうかが決まる重要なことだと思う。回収率も大事だが、アンケート結果が市の実態を反映しているものかどうか大事。他市のアンケートなども参考にして、配布数が妥当なデータなのかを再度検討してほしい。

事務局回答 市民アンケートを実施している他部署にも相談して進める。

部会員意見 前は、回収率が良い印象を受けた。一般的には3割ぐらいを目指して調査研究を実施することが多いと思うので、前回の回収率（4～5割）から対象の人数を決めれば回収は見込めると思う。

部会員意見 市内の町内会によって、高齢化率が高いところと、子供が多いところがあると思うので、抽出法が大切と思う。統計学的なことになるが、クラスター分析をすると思うので、地区ごとの高齢化率等を見ながら均等に無作為で抽出するほうがよいと思う。

部会員質問 未就学児・小学生のアンケート調査票は、回答者は保護者で未就学児の質問に加えて保護者用の質問も記載されているところだが、保護者用の質問に対する回答は、成人用（19歳～79歳）の回答数の調査結果にインクルード（合算）されているのか。子どもと保護者がマッチングできるデータとしてとても貴重なものだと思うので。

事務局回答 合算されていない。

部会員意見 未就学児・小学生のアンケートは、子どもとその家族の生活がわかる貴重な情報が得られるものと思う。子育ての問題などもわかるかもしれ

れない。子育て世代の人たちに有用な支援につながると思うので、子育て中の人達の意見を聞きながら活用できるデータを得られるようにして欲しい。

事務局質問 成人のアンケートの中で家族構成の割合を付加しなければ、実際成人期の方だけにアンケートが送付されていて子育て世代の人に送付されているかどうか現状はわからないが、そこまで検証したほうが良いというご意見か。

部会員意見 乳幼児のアンケートだけで、保護者の回答部分がインクルードされていないのならば、保護者への回答部分はなしでもよいことになってしまう。せっかく保護者の方にとってのデータが使われていないのならば、事業に活用できていないことになる。

部会員意見 乳幼児・小学生、中学生・高校生、成人、という3つに分かれてアンケートを取ったとしても、検討時に、乳幼児・小学生の部分は、子ども、子どもと親、という形で検討されているのではないのか？子どもは親の影響がとても大きいので、子どもだけのアンケートだけではなくてその親のアンケートもやはりとるべきと思う。親の回答結果は成人の集計に入れなくても、検討の際に子どもと親という形で検討するのであれば意味があると思う。

部会員意見 (中間評価時は) 乳幼児・小学生の親と成人との結果について分析できていないとしても、今回、最終評価として成人にプラスして乳小の保護者の状況が分析できれば市全体の計画に生かすことにつながると思う。それと、送付時について、成人で抽出された世帯には乳幼児・小学生のアンケートを送付しないほうが、成人の部分で重複し混乱を招くことを防げるので良いと思う。その操作が作為的にならないか、アンケートの担当課と相談してほしい。また、町内会によって年齢の分布に差があるので、各地区の割合は注意すると良いと思う。

部会員質問 アンケート実施するまでどのくらい時間があるか。

事務局回答 アンケート実施は年明け(令和5年1月)だが、次回の専門部会で、アンケートの修正案をご確認いただく予定である。

部会員意見 県立保健福祉大学の地域活動の講演会を聞いたことがあるが、趣味やボランティアなどで地域で活動されている方は病気になりにくいという内容だったが、他の書籍や講演でも同じ内容を見聞きするし自分の住んでいる地域でもそのように実感している。そういったことの分析に大変興味があり、期待するところである。

部会員質問 ①全体的に質問量が多いと思うが、削除した質問はあるか。
②質問総数は以前と比べてどのくらい増えたか。

	③回答に要する時間について検討しているか。
事務局回答	回答に要する時間について、検討はまだしていない。
部会員意見	質問数について、他の自治体と比べて重い気がする。
部会員意見	頻度を問う質問について、表現が分かりにくい。たとえば、問 14 の場合、「月 1 回」という人が選択肢に迷う。わかりやすく表現してほしい。ぱっと見たときのボリュームをイメージしてもらうことと、頻度を問う質問の表現をわかりやすくしてほしい。
部会員意見	「そう思った」などの表現も。アンケートに回答するには非常に大事なことだと思うので、検討をお願いします。
部会員意見	中学生・高校生向けのアンケートでは、学食や給食のことについての質問を加えるとよいと思う。学生にとって、食事をとるという観点では給食や学食、お弁当などの、昼の食事のことは大事だと思うので。
部会員意見	以前のアンケートには給食に関する質問はなかったと思うので、検討してほしい。
部会員質問	成人の問 20 は、単に外食（外で食べるか、家で食べるか）についての質問か、栄養価について質問しているのか。コロナ禍で、ウーバーイーツなどのデリバリーを利用する人が非常に多いと思うが、栄養価についての質問であればデリバリーは外食に含まれるのか疑問に思った。
事務局回答	成人の問 20 は、単純に外食をするかどうかに関しての質問。デリバリーについては問 21 を想定している。
部会員意見	問 21 に「デリバリーも含む」という表現が必要と思う。
部会員質問	成人の問 27-1（備蓄飲料についての質問）の注意書き「1 日分は 1 人 3 リットルを目安と考える」とあるが、子どもについても 3 リットルと考えてよいか。
事務局回答	3 リットルとは、あくまでも成人としての量になる。
部会員質問	家族分ではなく、一人分として換算するということか。
事務局回答	そのとおりである。神奈川県に同じアンケート項目があり、そこから抜粋した。一人 3 リットルの記載があった。
部会員意見	家族がいる場合には等分して考えることになると思うが、「子どもは 1 日〇リットルです」などの注意書きを追加してもらえると回答しやすいと思う。
部会員質問	乳幼児・小学生の問 6「運動する機会がありますか」について、幼稚園や学校での活動も含めてよいのか、帰宅してから運動しているかという質問なのか。
事務局回答	持ち帰り確認する。

部会員意見 乳幼児・小学生の間6は、保育園や幼稚園以外での運動について聞かれているようにも読める。表現を検討して欲しい。

11 議事（3）今後のスケジュールについて事務局より説明。

- ・過日5月31日に、「健康増進計画・食育推進計画庁内ワーキング」を開催したことの報告
- ・食育推進検討部会・栄養成分表示推進検討部会について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために令和2年度より事業実施がなかったため、開催していないことの報告
- ・第2回専門部会は8月18日（木）に実施すること
- ・10月に保健医療対策協議会で進捗状況と市民アンケート内容について報告し令和5年1月に市民アンケートを実施する予定であること

12 その他

会議中の質問について、事務局から追加回答があった。

事務局回答 統一献立における地場産物の使用割合15.4%の根拠について、担当課に確認した。計画策定時の地場産物の使用割合は13.2%だったところ中間評価の時点で15.4%まで伸びた。そのため中間評価後の目標値は15.4%に設定した。中学校給食を実施したことにより、多少の変動はあるが目標値はそのまま15.4%を採用した。

13 閉会

- ・事務局より、本部会の議事録と会議資料は市政情報コーナー及び本市ホームページで情報公開を行っており、部会員名簿に記載された内容で公開することについて確認した。

(以上)